

## 中山道 69 次ウォーキング 15 日目

蘇原駅-約 12Km-加納-5.9Km-河渡-4.8Km-美江寺-約 6Km-東赤坂駅

9 月 11 日、始発電車に乗り、名古屋経由で前回到達地点の JR 高山本線蘇原駅到着は am9:30。前回の 7/31 は 38 度の猛暑でリタイアしたが、本日の予想最高温度は 28 度で晴れ時々曇り、早朝は長袖でないと寒かったものの既に日は昇り半袖で快適。蘇原駅から 10 分程で旧中山道(国道 21 号線)に戻り歩き始める。

### 空からの爆音と路上の絵

飛行機の爆音が凄まじく、屋根と屋根の隙間から離陸直後で急上昇している自衛隊の輸送機が見え、更に V 字型の垂直尾翼の戦闘機 2 機編隊も離陸して上空に円を描いている、調べたら航空自衛隊の各務原基地が近くにある。速度が速くて視界が狭く、写真は取れないが、とにかく音が凄い。こんな所によく住んでいられるなと思っていたら、1 時間程でピタッとやみ、あとは遠くのヘリコプター音だけ。足元を見ると歩道の路面に飛行機のタイル絵、この地の住民は飛行機と共存しているのだ。ユーミンの飛行機雲を口ずさむ。

各務原、那加町のタイル絵



### スパイダーマン



見つけた、しかも 2 人。この家にはどんな人が住んでいるのだろうか、顔を見たいような、見たく無いような?

鶉沼宿から加納宿まで 17.4Km、既に半分は歩いているが、旧中山道は国道 21 号線と並行する旧街道となり、車の通行量は比較的少ないものの宿場の遺構は全くない市街地。歩くのは楽な反面、面白みは少なく、被写体となるような光景には縁遠い。とある住宅でスパイダーマンを

## 日吉の蛙

鵜沼と加納の間の距離が長いので、間(あい)の宿として新加納の立場(休憩所)が設けられた。



その昔、日吉神社の池にはたくさん  
さんのヒキガエルが住んでいまし  
た。いつの頃からか大きなカエル  
が住みつき、村人たちはいたずら  
の被害に悩まされます。「腹が減  
っているから悪さをするのでろ  
う」と考えた村人たち。ごちそう  
を池に投げ入れるとカエルは悪事  
を止め、日照りに雨を降らせたり  
病人の家に薬草を届けたりする福  
ガエルへと姿を変えました。そし  
て福を呼ぶカエルに感謝の気持ち  
を表したものが、日吉神社にある  
2体の狛蛙といわれています。

その新加納で「日吉の蛙」の石像があり、  
ネットで調べたところ、この地にある日吉神社は狛犬ならぬ  
狛蛙があり「日吉のカエル」として有名  
とのこと、

## 昼食のランチ

旧中山道は市街地の中の旧街道であり、店舗は少ない。時刻は12時前、朝食は5時だったので早めの昼食をと食堂を探しながら歩いていたら、「ランチあります」のビラを見つけ、その喫茶店に入る。中身の確認もせずにランチを注文し、出てきたものを見て豪華なのにびっくり、慌てて値段を確認、750円だったので安心した。



この内容でこの値段は安く、しかも食後のコーヒー付き。喜んだものの、写真の上段の箱の左端にある鶏の唐揚げとコロケは油ベトベトでまずかった。

## ドラキュラ館

## 加納宿 53番目

やっと加納宿に到着、宿場遺構は何もなく、説明板があるのみで、行政的には岐阜市。ガイドマップに「ドラキュラ館」とあり、観光地によくあるXX館かと思ったら、ただの廃墟ビル。こんなものマップには書かないで欲しい。



そのすぐそばに「二文字屋」の屋号と木製の杵つき兔をかざっている店があり、近づいたら鰻料理の店で、調べたら元和6年(1620年)創業の超老舗、兔は『左甚五郎』が欄間に彫ったもの。





もう少し我慢すればこの鰻を食べられたのに、残念。

### 御鮭(おすし)街道



旧中山道の道路標識として、道の両側の側溝の蓋に御鮭街道と書かれている。ネットで調べると、岐阜で作られた鮎の熟鮎(なれずし)を江戸の將軍家まで運ぶのでその名がついたとのこと。但し、中山道はその最初となるこの付近だけで、脇街道である岐阜街道を経て宮まで運ばれてそのあとは東海道を行き、江戸に到着する頃に食べ頃となるように発酵を調節した。

### 長良川と小紅の渡し

加納宿を過ぎると長良川に差し掛かり、河渡(ごうど)橋を渡ることになるが、ガイドブックには「小紅(こべに)の渡し」なる渡し舟が書かれている。小紅の名がいいし、無料だし、船頭が竿であやつる小舟に乗るべしと上流に向かって20分程歩き、標識に従い川原の雑草を踏み分けていくと、川原石を積んだだけの渡船場があった。



河渡橋から上流を見た水量の多い長良川  
矢印の付近が小紅の渡し



小紅の渡しの  
舟と赤旗



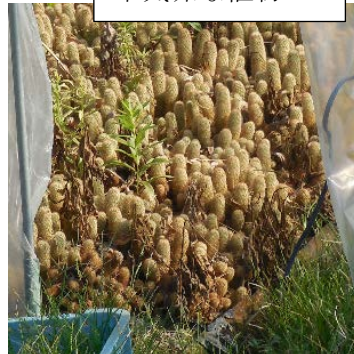
対岸には小舟が繋がれ、堤防の上に小屋がある。ガイドブックでは「その小屋に向かって手を振れば迎えに来る」とのことだったが、標識板には「赤旗がでている場合は欠航」と書いてあり、小屋の横になんとその赤旗が・・・、残念。前日の台風の影響で水量があり、風も強く川面に波がたっていて、やむを得ないと思うが。

トボトボと歩いて引き返し、河渡橋を渡った。

### 河渡(ごうど)宿 54 番目

文字通り、長良川を渡ったところにある宿場である。ここも宿場の遺構は何も残っていない。行政的には瑞穂市となり、今までの市街地から、耕作地が増えて郊外の雰囲気となる。道路沿いのビニールハウスは花木類が多く、その中の一つに、全く見たことの無い植物で、形状からサボテンの1種と思うが、のっぺらぼうがニョキニョキ生えていて不気味な感じのものがあつた。

不気味な植物



### 美江寺(みえじ)宿 55 番目

虫籠窓の綺麗な美江寺の旧庄屋



奈良時代、伊賀より十一面観音を移したことで河川の氾濫が収まり、美しい江となった為、観音堂を設置した寺を美江寺と名付けたとのこと。その寺は斎藤道三により岐阜に移されて廃寺となり、今はその場所に美江神社があるのみ。宿場としては小さくて本陣一つで脇本陣無し、宿場遺構は何も残っていない。

美江寺千手観音堂



美江神社の木陰にベンチがあり、一休み。本日のお八つはチョコクッキー。集落の中に虫籠窓の綺麗な旧家があり、旧庄屋だった。

宿場の外れには小さな千手観音堂があり、その中に祀られているの

は天保4年(1833)寄進の石造の千手観音、写真から分かる様に、江戸時代作には見えず、現代的で容姿淡麗。

千手観音





## 赤とんぼ

美江寺を過ぎると、稲刈りには少し早い稲穂の実った田んぼが続き、赤とんぼの群れが飛び交う、赤トンボが絶滅の危機にあると書かれた記事を読んだ記憶があるが、ここではまさに乱舞している、赤トンボの種類が違うのだろうか？ 残念ながら赤トンボ軍団の写真はうまく撮れなかった、

## 揖斐川

遠くに見えていた揖斐川の堤防が近づいてきて、橋の横の階段を上がって橋を渡る。木曾から木曾川沿いに下ってきて、各務原で木曾川と別れたのは14日目、15日目の本日は長良川と揖斐川を渡ったことになる。



## 長屋門と小簾紅園(おずこうえん)



街道沿いに見事な長屋門があり、ただその長屋門には現代建築の窓が作られていて、現在も人が住んでるということが分かる。

その先にあるのが小簾紅園、小簾はともかくとして、紅園とは一体何だろうと思われるだろうが、中身は和宮記念公園。

中山道の住民にとって和宮降嫁は幕末の大イベントであり、その遺跡は中山道の殆どの宿場にあるが、ここまで大げさなのは珍しい。

因みにネットで調べると「幕府の威信をかけて、行列の安全を守るため、御輿の警衛に12藩をつけ、沿道の警固には29藩を動員。和宮の行列は、本隊が千数百人で、警固の者や人足などを合わせると、その長さは50キロメートルにも達したと言われています」とあり、大掛かりなもので、確かに、山中に休憩のためだけの家を建てた例も見た。庶民はその行列の見物を禁止され、行列通過中は葬式も禁止、京都を10/20に出発して11/15に江戸に到着したので25日間かかったことになる。和宮は呂久川(揖斐川)をこの地で渡り、その際に対岸の紅葉を見て、「落ちて行く身と知りながらもみじばの人なつかしくこがれこそすれ」と詠んだ。それを記念したのがこの小簾紅園、紅園にある石碑の漢詩は、読みは分からないか意味は汲み取れる。



マンホールの蓋

14日目の鵜沼宿(各務原市)のものと似て異なるもう一つシンプルな各務原のものがあった。単純な円や六角形を繋いだデザインは全国共通のようで、中心部だけが異なる。各務原中央の菱形は市章。加納宿(岐阜市)は鵜飼いで、鵜と鮎と籠、カラーバージョンもある。



河渡宿では、マンホールの蓋は見当たらず、美江寺宿(旧巢南町、現在は瑞穂市)は町の木モミジと町の魚ハリヨ、旧巢南町のもう一つの「巢南集排」は、モミジとハリヨが棲む川の流れのデザイン。因みに、ハリヨとはトゲウオ科の全長5cm程度の淡水魚。



美江寺宿から次の赤坂宿まで9.6Km、その中間地点にある養老鉄道東赤坂駅で電車に乗り、岐阜で乗換、近鉄名古屋経由で帰宅。本日は5.8万歩。

15日目

